

尾張旭市職員の給与に関する条例等の一部改正について

討論要旨 山下幹雄議員

今の議案の予算決算委員会の中で、私はもちろん反対討論はしておりまして、予算決算委員会の中では全議員が参加されているということで、本会議での必要性について疑念を感じまして、今回は通告をしておりませんでした。関連して登壇をさせていただきました。時間を少しいただきます。

今回、職員分についてはどうだということもあります。上げるのが当然だという考えもあります。しかしながら、この会期中に財政の話もお伺いしました。私も本市中期財政計画等も、公表されている部分をしっかり読ませていただきました。

財源不足が令和9年まで、30億円近い、二十数億円が予定されている、さらには、この期間中にお話をいただきました財政課長からのレクチャーによりますと、来年令和7年度の当初予算におきましても、16億円近い財源不足が今のところ予想され、これからの短期において、これをどうやって埋めていくかということは今苦慮されているのが、財政当局であると思います。

こうした中、その財政を埋めていくにはどうしたらいいんだという説明の中には、義務費におきましても、もちろん扶助費、そして人件費がある、こういったものも一つ一つ精査して、やっていかなくちゃいけないという説明であったと思います。皆さんもお聞きになっていた。それを埋めていくのに当たって、今、議員、また特別職、職員の皆さんはということもあります。しょうが、これは比率もしっかり考えてやっていくべきだということであり

ます。

お話は少し飛ぶかもしれませんが、地方の話です。これは、国会の衆議院の代表質問でもありました。島根県海士町という小さな地方のまちの話、このとき、大変、財政の再建を本当にしなくちゃいけない、財政力指数は0.1ということでありました。危機感がある中での話でありましたが、町長はこの危機を何とか乗り切らなくちゃいけないということで、自分の報酬は50%、半額にしました。そして、三役はこのとき、同じくやはり、町長がやるんだったら50%、職員は、何とかこの財政を切り抜けるためにということで、職員の階級等にもよりますが、やはり30%近い給与を自ら返上して、何とか再建しましょう、そういうふうに行行政側がしっかり、何とか皆さん、町民に理解を得るような形で覚悟を示したんですね。

覚悟を示した中で、町民の皆さんは、町長や、そして三役や役場の職員の姿を見ながら、補助金は、じゃ私たちもいいです、今まで補助金をもらいながらいろんな事業をやっていた町民は断りました。また、公共バスも通っていましたが、公共バスの運賃も値上げしてください、町民がそう協力

を申し出ました。

これぞ一枚岩のまちづくり、何とかそういった財政の、本当に破綻しそうな危機の状況であったから、こういった状況であったと思います。これ、でも20年前なんですよ。2005年にこの状況で、今、海士町は財政再建に向けて闘い中、なかなか再建できないんです。20年かかっても、いろんなことをやってもなかなかできない。でも、今、国会でも、模範となるまちづくり再建の目安だということで、石破総理も、参考にすべき点は多くあるということをちゃんと公表されている。すぐネットとか新聞を見ていた人、ニュース見ていた人は分かると思うんですけども、そういうふうに言っていました。

この尾張旭市は、今いろんな議論の中で、0.82、財政力指数の話ですが、毎年落ちているんですよ、3年連続落ちている。こういった登壇で、毎年、人事院の勧告や報酬のときは反対してきましたけれども、いろんな討論がありました。よくなっているんでしょうか、本当に。経営はしっかりやっていると報酬審の人は言うてくださっていますけれども、この町の財政よくなっているのか、何で16億円の財源不足があるようになってしまったのか、それは自然の流れなのか、いろいろ考えなくちゃいけないと思うんですよね。

そういった中で、今やるべきことは何かを考えたとき、これが民間でいえば、今日、市長来ていただきまして、お帰りなさい、来ていただいています。民間経営の中で、本当に苦勞、僕はされていると思っています。

今、どんどん上げたらいいじゃないか、そりゃ上げられたらいいですけども、そうしたら今度、職員の皆さんも上げる中で、どういうふうに今度は、例えば職員数を変えていかななくちゃいけないということ、はっきり財政関連は言っているわけですから、縮減するためには今度は人を切っていく、どういうふうに、順番に辞めていってもらえるのか、そういった話にもなってきます。

トヨタショックや、それから近年までも、どうやってリストラしていくんだといえば、まずは職員給与を減らして、職員数を減らして、そして財政立て直しするのが、民間経営のセオリーだというふうに思っております。そういったことは十分、民間で仕事をしてみえた方は、また経営者の方は分かっていると思うんですけども、そうした中で、整合性取れていないですよ。

これ上げますというのを人事院勧告に言われたとおりにやるというのが、どうなんですか。財政が足りないから人件費も削らなくちゃいけないという報告を皆さんにされているにもかかわらず、このまま通していくということについては、やっぱり一石を投じたいな、皆さんも考えて、今後このままどんどん上げ続けていって、どんどん人を切らなくちゃいけないようなことにならないように、今から、ここはちょっとぐっと我慢してでも、今こういったことをしっかり考えて、1人でもどうしたら立て直せるんだ

ということを考えていただきたいということで討論をさせていただきました。